



デフパペットシアター ひとみ座

新春号・第 111号 2013年1月20日発行

本年もよろしくお願いたします!

やなせけいこ・榎本トオル・善岡修
鈴木文・牧野英玄・富安優子・白井赫
大木翔吾 (制作) ・大里千尋 (制作)



by 大里千尋

日々制作... 風

by 大木翔吾

先日は神奈川にも大雪が降り、まだまだ寒い日が続きます。

全国の皆様、お元気にお過ごしでしょうか。

新しい年が始まり、私は今年の目標を「大根のような人間になる!」と掲げました。その理由は、何でも吸収して何色にも染まる、幅の広い人になりたいな、と思ったからです。

昨年私は、全国でたくさんの大根人にお会いしました。地域でアグレッシブにご活動されている皆さんに学ぶことは本当に多くて、

- ・手話未経験なのに、公演前の手話での挨拶に挑戦!
- ・公演前にワークショップを3回も行い、違うご活動をされている団体の方との繋がりを深めていく。
- ・作品をより楽しむために、やし酒を飲んだり、森に遊びに行く!

など、なるほどな一つて思うアイデアを思いつき、それを実行・実現していく皆さんと活動をご一緒出来たことが本当に幸せでした。

今年は、全国の大根人の皆様に教えていただいたことをふまえ、立派な大根に育ちます。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

『アサガオ吸ったらまずかった』

美しく可憐な見た目でも、中身は伴うわけではない——という比喻では全くなく、文面そのままアサガオの蜜吸ったらまずかったというそれだけの話。昭和末期の生まれだろうが、横浜生まれ横浜育ちだろうが、吸う人は吸うんです。おいしいのはやっぱりツツジだよ。

いきなり何の話かといった具合ですが、先日、世代や地域、果ては性別まで違う人の集まりで「子どもの頃、花の蜜を吸った。」という話題が出たのです。今まで、友人はおろか兄弟間でも「そんなことはしたことない。」とばかり言われてきたので不思議でなりません。

とまあ、育った環境や世代が同じ人間にすら理解が得られない一方で、世代はおろかあらゆる壁をひよいと飛び越えてしまうということもある。

デフ・パペットのお芝居もあらゆる壁をひよいと乗り越えて、みなさまの心へ入っていく。そういうふうであり続けたいのです。・・・話の展開が強引?何の事だかよくわかりません。

今年の目標は「昨日の我に今日は勝つべし」です。では、また。

3ヶ月に一度のこんにちわ

かく語りき。

by 白井赫

赫です。
新年始まりましたね。

ところでご存知でしょうか、
我がひとみ座に夏祭り音頭の出来たことを。
その名も『平成ひとみ座音頭』ッ!
今回は、その一番の歌詞を紹介したいと思います。
手拍子に合わせて読んでみよう!

井田山ふもとに灯がつけば
ジャンベ(※1)鳴らして踊ろうや
見よやすましやダンディーも
チョイとこざる(※2)を引きました

ひとつ回ってみましょうと
とんと跳ねたはウサギさん
見えを切りたきや助六さん
いだいだ井田(※3)のひとみ座音頭

※1 アフリカの伝統的な太鼓。松本孝弘といえばレスポール、布袋寅泰といえばフェルナンデス、やなせけいこといえばジャンベ。

※2 人形仕掛けの一つ。これを引くと人形の頭が頷く。

※3 地名。ひとみ座がある。最寄駅は元住吉。

補足:「デフ・パペットシアター・ひとみ」は、ひとみ座を母体とするグループで、メンバーはひとみ座の座員でもあります。ひとみ座とデフパペは、同じ場所で稽古をし、制作もしています。

お知らせ

昨年6月から始まった「ろう学校の子どもたちと創る人形劇ワークショップ」[(公財)キリン福祉財団助成]の発表会が11月に無事終了しました。その様子を榎本トオルがお伝えします。

大宮ろう学園人形劇創りワークショップの発表会

小学5年生は、お米ってどこから来たのかな？
お米ってどうやって育つのかな？
お米はお寿司になった！

「お米の話」を3つチームに分かれて、お米についてみんなで考えて、人形劇を創りました。

小学4年生は、「泣いた赤おに」。
原作を読み、どの場面を人形劇にするかを子どもたちと一緒に考え、赤鬼さんってどんな鬼？
青鬼さんは?? 人間は??
物語の中の人物になりきって、
みんなで人形劇を創りました。



今回のワークショップのステップは、台本を読み、言葉を理解することでした。

発表会では、保護者の方やキリン福祉財団の方、デフパペ関係者らが見学。セリフを一生懸命に覚えていて、声を出して手話で話しました。子どもたちは生き生きして、顔が輝いていて表情が豊かでした。

人形作りは、人形を両手でも片手でも持って動きや話しが出来るように工夫していて、表現が伸び伸びしていました。

発表会が終わって、子どもたちから「また人形劇をつくりたい。やりたい」という感想を聞いて、嬉しかったです。

来年度も、キリン福祉財団さんの助成をいただくことが決まりました。今度は資源物(空き缶・ペットボトル・紙・ひも・箱など)を集めて人形を作ります。色んな表現が出来るような動きやすい人形の構造を考えて、音を取り入れた人形劇を、ろう学校の子どもたちと一緒に創りたいと思います。

榎本トオル

※小学6年生は、絵本「モチモチの木」を選んで3回ワークショップをして、7月に発表しました。短かい時間でしたが、発表はとても感動的でした。

人形劇団ひとみ座・仮面人形劇 「ロミオとジュリエット」

デフパペ創立メンバーの一人、森元勝人の演出作品です。この作品の原型は70年代、渋谷にあった人形劇スナック(!?)「プルチネラ」に遡ります。1973年にこの小劇場で初演を迎えてから40年、伝説の名作がよみがえります。みなさまぜひご覧ください！

原作 ウィリアム・シェイクスピア

脚色・演出 森元勝人

美術 片岡昌

2013年3月13日(水)～20日(祝・水)[15日(金)休演]
相鉄本多劇場(横浜)

14:00開演 14日(木)・16日(土)～20日(祝・水)

19:00開演 13日(水)・14日(木)・16日(土)・19日(火)

開場はいずれも30分前

料金 前売り2,800円 当日3,000円 ※全席自由

お申込み 人形劇団ひとみ座

TEL. 044-777-2225(10時～18時 日休)

FAX. 044-766-0249

E-mail puppet@hitomiza.jp

URL <http://hitomiza.com/>

デフ・パペットシアター・ひとみ友の会の方に朗報！

お申し込みの際にデフパペ友の会の会員であることをお伝えいただくと、割引料金2,500円でご購入いただけます。友の会会員様を通じてお申込みいただければ、何枚でも結構です。みなさまどうぞお誘いあわせの上、ぜひご来場ください！！

デフ・パペットシアター・ひとみ 友の会会員募集中！

友の会会員の特典

☆お誕生日カードプレゼント メンバーからのメッセージ入りです

☆デフパペの公演を300円引きでご覧いただけます

☆デフ・グッズお買いものチケット500円分をプレゼント

☆年4回発行のデフパペニュースをお届けします

※発行回数は変更することがあります

年会費 1,500円 ペア会員 2,500円

お申込み方法はデフパペ事務所までお問い合わせください。

Tel 044-777-2228 Fax 044-777-3570

E-mail deaf@puppet.or.jp

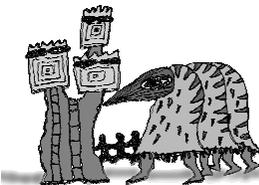
公演スケジュール

1月～4月 (1月20日現在)



2014年3月28日～30日 横浜公演決定！

来年度春、神奈川芸術劇場で3日間公演します。
2011年4月に初演をご覧いただいた方、まだご覧になっていない方も、よりパワフルになった「森旅」の世界を体験し、お楽しみいただけたと思います。みなさまどうぞご期待下さい！！



「森と夜と世界の果てへの旅」

3月30日(土) 新潟県津南町
津南町文化センターホール (開演15:00)

「稲むらの火」

2月2日(土) 愛知県知多市 勤労会館やまももホール
10:30より人形劇とお話

★2月13日(水) 神奈川県横浜市立文庫小学校

「ワークショップ」

2月5日(火) 港区手話サークル(やなせ・善岡・他)
★2月22日(金) 川崎ろう学校:音のワークショップ
(やなせ・善岡)

★は学校公演です。観劇ご希望の方はデフパペ事務所までご連絡下さい。

追加・変更される場合もありますので、詳しくはデフパペ事務所にお問い合わせ下さい。

「人形」其の六

見た所人形劇とは関係の無さそうな、例えば案山子のような人形劇を祭りやムラの行事の中で、それを手に採り、動かしたり、捧げて行進したりして祭りが終わると、この人形を壊したり燃やしたり、水に流したり沈めたりすることは各地で行われてきていた。

福島県会津高田町伊佐須美神社・喜多方市慶徳神社・熊本県阿蘇郡一の宮神社のいずれも御田植祭に、一本棒の7、80センチの人形が参加する。福島と熊本こんな離れた所でそっくりな似たものがあるということは、以前は各地で行われていたのではないかと思う。それが忘れ去られた。廃れたには理由があったろう。この現象を理解する上でぴったりの例がある。義太夫節が盛んになるとそれまで京都や大阪などで流行していた他の流派の人形浄瑠璃は大都市の劇場から消えていった。例えば岡本文彌の文彌節による人形浄瑠璃は、現在では宮崎県山之口・鹿児島県東郷町・石川県東二口・佐渡などに残っているが中の地域がすっぽり抜けているのである。こうして見ると、御田植祭に人形が出るのは古い形であるといえる。それが何故廃れたのか、考えられるのは、田植祭の行事芸能は神に見せる、神に捧げる華やかなものが多いが、人形の参加は、神に捧げるものではなく、神そのものの出現の意味があったのではないかと考える。田植の祭に神の出現が必要であった時代があった。日本の芸能、人形劇は神を示現するものとして出発したが、やがて神を称え奉納する内容になっていった。それでも現在も神としての地位を持って演技する人形もいる。

その代表が福島県吉富町八幡古表神社の「くわしお舞と神相撲」である。舞殿で祭神の人形がいくつかの演目を披露する。その中で有名なのは、単純な裸の力士たちが東西に分れて行う神相撲で、小さくて黒い住吉様が、大男の相手を投げ飛ばしたり、六人の相手を一挙に押し倒したりする。これは各地で行われている相撲神事と同様予祝的であり、神様といっても門付けの祝福芸に近くなっているといえる。そして人形が祭の中で神の地位を追われたときまず第一に行ったのは、呪術者への変身であった。

福島県の南、茨城県水戸市の「大野みろく」は正面約2メートル、長さ約3メートル、高さ約150センチの木枠の囲いにぐるっと幕を張り、この上に120センチ程の大型の人形を三体出して揺り動かす。伴奏の太鼓もこの幕の中で行い、木枠は舞台として据えられて街を巡る。移動する人形劇である。この人形は頭は木製で、長い一本棒で支えられる。胴体は竹で編まれた籠で、両手は肩からぶら下がっているだけだが、それぞれ扇や幣束、太鼓や撥などが手に付けられているが、棒を振り回すとぶらぶら揺れるだけでその姿が駄駄を捏ねているように見えるので「だだみろく」ともよばれている。この三体の人形の顔は赤、青、黄色に塗られている。これにはどのような意味があるのか。現在は廃止されているが東茨城郡美野里町でおこなわれていた「みろく」は五体の人形があって、赤、青、黄の他に白と黒があった。この五色は中国の道教などの考えで日本に於いては陰陽師の陰陽五行を現したものであった。このような人形が呪術的な力を持っているという主張は人形浄瑠璃が始まった後も道化人形たちによって受け継がれた。佐渡に残る「のろま人形」は赤の酒呑童子、青の長者、白のお花、黄之助で構成されている。(黒の仏師は異なる人形に変わったものと見る)〈つづく〉

文：宇野小四郎